

特定非営利活動法人 鹿児島県認知症グループホーム連絡協議会
平成28年度認知症セミナー「グループホームで看取る」 アンケート結果

日時 平成28年11月12日(土) 13:00~17:30

会場 宝山ホール 第6会議室

参加者数 89名

アンケート提出 53名

【第1部】看取りにおける医師の役割～介護者に知っておいてほしいこと(黒野明日嗣先生)

Q、理解できましたか？ 1.理解できた 46名 2.ふつう 5名 3.理解できない 0

Q、今後役立てそうですか？ 1.役立つと思う 50名 2.ふつう 1名 3.役立つと思えない 0

Q、印象に残った内容を教えてください。

- ・介護者の思いで先走っていたところがあった。食べたくない、食べれない、その時の選択肢を間違えないようにしたい。
- ・人はいつか死ぬ、ということ。
- ・プロセスが大事。今を大切に。死ぬときにできる事は少ない。
- ・認知症と診断されたときから看取りが始まっているということ。(同様の回答多数)
- ・死は特別ではない。
- ・いい最期とは誰にとってなのか。本人、家族。
- ・自分の価値観を押し付けずに、本人の望むことは何かを念頭において提案する事。
- ・本人、家族の思いに寄り添う。信頼関係を深める。
- ・思いにはそれぞれの価値観があり、多様であることを学んだ。
- ・本当に本人の意思決定であるのか。無神経に家族の決定を尊重してしまう傾向。
- ・健康なときに自分の意思を書面で残す社会作りが求められる。
- ・今の日常を大切にしていないと、いい看取りはできない。
- ・どうやって死にたいかを聞く。
- ・家族と一緒に考え、ゆれて話し合うこと。死の話は信頼関係がなければできない。
- ・意思決定に必要な知識。
- ・「いい最期」という言葉が良いと思った。
- ・看取りの意思確認書。
- ・看取りを行う環境を自分たちで減らしている気がする。原点に戻り、病院に頼らない支援に努めたい。
- ・施設に入られた方の介護を行うものは、大事な場面に立会い、良い最期を迎える為に、その人を理解した介護をしなければならぬということを学んだ。
- ・すべてのケアは、いい最期のために。
- ・看取り介護の大事さが良く分かり、その人らしさを大切にして、ケアを行うこと。
- ・看取りについての捉え方を変えることができた。
- ・どういう最期を望むのか、良く話し合うことが大切。
- ・意思決定に患者が参加していること。
- ・看取りは場所と必要なケアを提供しているだけで、実際には家族がおこなうもの、という言葉が印象に残った。ついつい、自分たちの思いを強くしてしまっていることを反省しました。
- ・看取りは出会ったときから始まっている。毎日、何かを選択できる生活が大切。生死観。
- ・医師の出番は少ない。
- ・看取りの今の現状が良くわかった。
- ・「良い死は、毎日の良いケアで迎えられる」日々の仕事の中で、普段通りのやり取りが当たり前になり、意識する事が無かった。

【第2部】活動発表 ①看取り事例 ②看取り加算に必要な書類・計画の提案

Q、理解できましたか？ 1.理解できた 46名 2.ふつう 4名 3.理解できない 0

Q、今後役立てそうですか？ 1.役立つと思う 48名 2.ふつう 1名 3.役立つと思えない 0

Q、印象に残った内容を教えてください。

- ・看取りの具体的な内容で分かりやすく、加算のときに活用したい。
- ・利用者に沿ったケアで看取り後に後悔が無いケースを知れてよかった。
- ・食べたくない方へのケアについて考えさせられた。
- ・資料を活用できると思いました。詳しい内容でありがとうございました。
- ・頑張っているホームがあることで、元気をいただいた。
- ・利用者はもちろん、家族の支援が大切。
- ・大変すばらしいケアプランで、参考にします。
- ・本人へ無理なことはせず、「もういい」と食べない意思表示に沿う。
- ・訪看との連携が興味を持って聞くことができた。プロセスを書面に移す作業。
- ・家族との関わり。
- ・ケアプランが細かく分かりやすい。
- ・その人にあった介護、すばらしいです。書類で悩んでいましたが、とても分かりやすい資料で助かります。
- ・家族の心情への寄り添い。とにかく話を聞く。同意書、確認書。

- ・ 本人が生き残るための支援。
- ・ 食べてほしい、という思いのスタッフと、「食べたくない。せっかんじゃ！」という本人の思いのズレ。
- ・ 具体的なプランが学びになります。現場に活かせると思う。
- ・ 入居時に看取りの同意書をもらう。
- ・ 今後役立てます。
- ・ 家族の思いに職員は良く向き合い看取りを遂げられたと思う。本人にしっかりと向き合った介護をしていきたいと感じた。
- ・ 具体的な資料で参考になったと思った。

【第3部】 看取りケアにおける看護と介護の連携ポイント（金子美千代先生）

Q、理解できましたか？ 1.理解できた 45名 2.ふつう 5名 3.理解できない 0

Q、今後役立てそうですか？ 1.役立つと思う 47名 2.ふつう 3名 3.役立つと思えない 0

Q、印象に残った内容を教えて下さい。

- ・ 地域包括ケアシステムについて知ることができた。亡くなった後のケアの大切さ。
- ・ エンドオブライフケア
- ・ 経験と理論が一致できるように勉強していきたい。死の過程、アドバイスポイントを教えて頂きありがとうございました。
- ・ 看護師の視点から話してもらえてよかった。
- ・ 看取りの背景から、連携のポイントまで、まとまった内容でとても学びやすかった。内容も具体的だった。
- ・ 本人家族の心情を理解し、心からの対応が大切だと改めて感じた。Drとの関係性が重要であり、課題でもある。
- ・ 多職種連携がスムーズにいくと、質の高い看取りができるのでは。
- ・ 介護者がどう思っているかではなく、利用者がどう思っているか。
- ・ 連携とは、同じ目標を持つものが互いに連絡を取り、協力し合って物事を行うこと。命 = 医療の質 × 人生の質
- ・ 看取り時の連携のポイント。
- ・ スタッフのバーンアウトの要因が分かった。
- ・ 話さなければ、受け取り方はそれぞれである。
- ・ 人のQOLは命の長さではない。I S B A R 本人の選択と家族の心構え。正しく伝える。
- ・ 内容が濃い講義でした。もっと時間を掛けてゆっくりとしたペースで教えていただきたかった。パワーポイントの資料のどこをしているのかがわからなかった。
- ・ 人間の尊厳ある死。QODを支える。
- ・ S B A R →業務の中で、伝え方が下手だと自覚する事が多いので、実践していきたい。
- ・ 「気になりましたので報告しました。」この一言が大切だと思いました。
- ・ 看取り以外でも活かせることがたくさんあると思いました。ありがとうございました。
- ・ クオリティオブデス、死にゆく人が望む最期を考えること。
- ・ 資料があつたりなかったりで、どこの話が分からなかったり、メモが取れなかったりで困った。
- ・ 本人の思いを尊重する。
- ・ 家族の思いも大事な要因であり、かつ、ご本人の思いも一番に尊重し、いい最期を迎えられるように関わりを持ちたい。
- ・ この時間でこれだけの濃い研修。2回ぐらいに分けてほしかった。

ご協力ありがとうございました。今後の活動に活かします！